

古墳保護

～僕たちに何ができるのか～

太田市立沢野中央小学校 6年2組

岩澤洸太



はじめに

「古墳」と聞くと、盛り土の部分、「墳丘」をイメージする人が多いと思いますが、ぼくの思う「古墳」は、それだけではありません。墳丘を囲う堀、堀にあり外と墳丘をつなぐ「陸橋」、さらに、古墳が生み出している周辺の「都市景観」。その全てが、「古墳」だと思うのです。今回は、そんな「古墳」の素晴らしさを、守り、後世に伝えるために、ぼくたちに何かできるのか、考えていこうと思います。

太田市役所の職員さんにインタビュー

太田市役所に行ったとき、下の記事を見つけました。

③ 天神山古墳周辺

東日本最大の古墳を活かした景観づくり

【現況と課題】

- ・ 天神山古墳・女体山古墳は周辺の農地と一体となり、良好な景観を形成しています。
- ・ 周辺の幹線道路交差点付近では、古墳への眺望を阻害する屋外広告物が見られます。

【景観づくりの方向性のイメージ】

- ・ 古墳と調和した景観形成基準などの策定
- ・ 天神山古墳・女体山古墳の樹木の管理や下草刈りの定期的な実施
- ・ 太田駅などから古墳への経路を示す標識・案内板などの整備
- ・ 古墳への眺望に配慮した屋外広告物の規制・誘導 など



天神山古墳

ぼくは、古墳に登り、周りの景観を見るのが好きですが、その景観を守っている人のことはよく知らなかった。どのような取り組みが気になり、聞いてみることにしました。

事前準備

- ・ 質問を考える
- ・ シミュレーションをしてから行く
- ・ メモするノートを持参
- ・ 事前に電話をしたから、問い合わせ先が分かった。

インタビュー当日

日時	8月19日 火曜日	お昼ごろ
場所	太田市役所 7階	都市計画課
担当	服部さん	

新しいことを知れるワクワクな気持ちですが、とてもきんちゅうしました。

内容

Q. 天神山景観計画は、今のくらい進んでいますか？

A. この計画は、あくまでそのまゝの古墳の景観をいじりて、守っていくことを目的としているので、現時点では何も言えません。

Q. その計画を進展させていくために、何か必要になってきますか？

A. 景観重点地区に指定し、天神山古墳の土地をむやみに使わせないようにする決まりは作っていかねばと思います。また、天神山・女体山周辺は、「風致地区」に入っているんで、戦前から守っています。

Q. 墳丘やその周りに、たくさんの草が生えていると思うのですが、景観的にも、それらの草は、良くないものなんですか？

A. いい景観とは、人の手入れが行き届いているところのことなので、はたらかしで、雑草が生えているのは、良くないですね。

Q. 市の景観の記事(p.1)に、「屋外広告物は良くない」とあったと思うのですが、それについて教えて下さい。

A. 基本的に、広告物は天神山付近に出してはいけません。ですが、道案内のかんばんや、道路表示などの、いわゆる標識。また、個人のかんばんなどは、大きさを小さくしてなら、出してもよいです。

Q. 人が立ち入ることでの、景観へのえいきょうはあるんですか？

A. 天神山やその周りは、人の生活の中にあるので、えいきょうはほぼありません。

Q. ぼくの家の近くの朝子塚古墳には、「朝子塚古墳保存会」という団体があるのですが、天神山古墳にはそのような団体はあるんですか？

A. 地区の団体のことなので、分かりません。

Q. 最後に、一言あればお願いします。

A. はい。私たちは、古墳の周りを管理しています。ぜひ、周辺の景観をうくめた関心を、みなさんに持てほしいです。

Q. 本日はおれそがしいなか、お時間をいただきありがとうございました。

A. こちらこそありがとうございました。



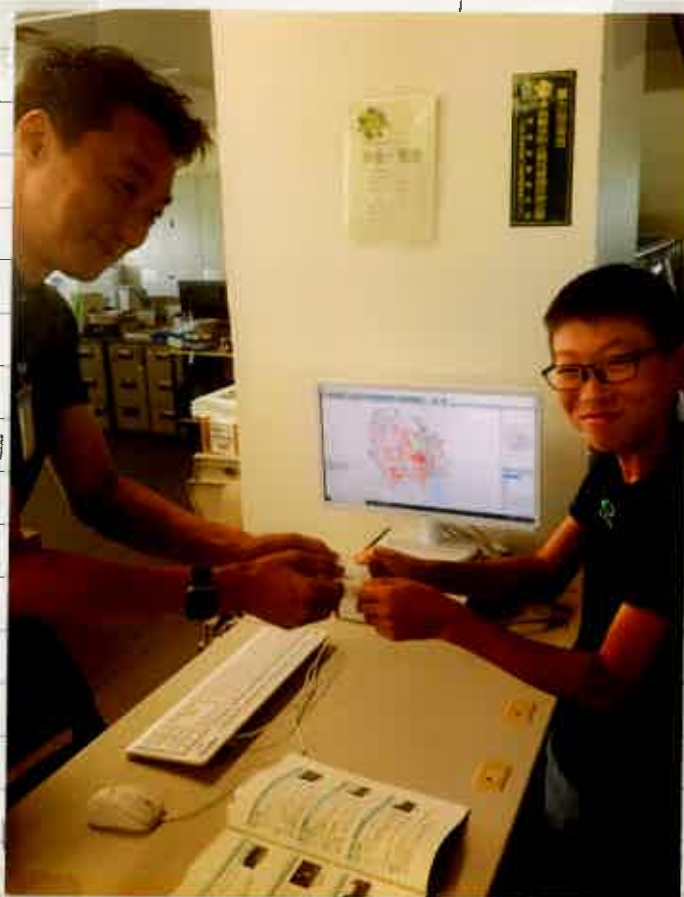
服部さんのお話を聞き、
周りの景観に注意して、
今の天神山の現状を調査して
きました。

周りには、お話にもあった
かんばんは少ししかなく、
そのままの古墳の景観が、
大切に守られていました。
ただ、雑草は、ぼくの太もも
あたりまで伸びていて、歩き
づらかったです。

取材を終えて

取材する前はただほたけし
にされているか、思っていました。が、
取材してみて、天神山古墳を
守ろうとしてくれていることに、
とてもありがたく、心強く
思いました。

以前訪れた、富岡市の
一宮4号墳のように、人と
古墳が共存し、自分たち
の手で、守っていくことが、
古墳を保護し、古墳の
美しさ、尊さを伝える上で、
とても重要だと思いました。



「東日本最大」「全国第26位」「東国屈指の古墳都市 太田市」のほこりを持って、市が「丸」になって、守って
いくべきだと考えました。

はにわ展に行きました

2024年12月、台東区上野の東京国立博物館で開催されていた、はにわ展へ行ってきました。はにわ展では、群馬から出土した埴輪が、およそ半分展示されていて、群馬の埴輪の美しさとクオリティーの高さに、改めてびっくりしました。「群馬ってすごいな」をたくさん感じられた1日でした。



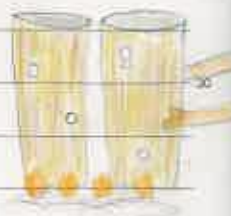
入口であつきました ➡

埴輪窯跡見学

はにわ展で非常に大きく取り上げられていた、5体の国宝武人埴輪。証拠はありませんが、ここ、太田市北部にある「駒形神社 埴輪窯跡」で作られたのではないかと思います。調査へ行きました。

現地の様子・感想

草が生い茂っていて、跡地というのはいまいち分かりませんが、ここで作っていたのかもしれないと考えるととても大切にしたいところです。ですが、分かりにくいので、埴輪のレプリカ等を置いてほしいです。



「日本最大」の古墳へ

大仙古墳とはどんな場所なのか

この夏、ぼくは大仙古墳に行ってきました。大仙古墳とは堺市堺区にある前方後円墳で、墳丘長が486mの、日本で一番大きい古墳です。周辺には中小規模の古墳が所せましとあり、大仙古墳をふくめたこれらの古墳を百舌鳥古墳群といいます。5世紀中ごろに造られたと考えられています。

見てみた感想

すさまじいほど大きく、近くに来ただけでは、形は全く分からず、大きな森でした。ほりは3重になっていました。2025年の1月にあった、れきはくセミナーで、「ほりの水の波によって、墳丘が削られてしまう」と言っていたので、この広い古墳の広いほり全てに対策するのは、とてもコストがかかり、大変だなと思いました。レンタルサイクルで外周を一周しましたが、ものすごい長さで、半周でも息が切れました。加えて堺の街はとても暑いので、夏の時期に百舌鳥古墳群をめぐるのは、おすすめできません。

仁徳天皇、てどんな人

大仙古墳は、「仁徳天皇陵古墳」とも呼び、仁徳天皇のお墓とする説が有力です。こんなに大きな古墳を民に作らせる仁徳天皇とはどんな人なのか気になり、調べました。すると、仁徳天皇は、とてもやさしい人だと分かりました。残っているこんな話があります。ある日、村で、かまとからけむりがでていなくなり、ことに気づきました。そこで仁徳天皇は、民しづに豊かなくらしをもたせよう、税金をタダにしました。すると、村がはまたかまとからけむりがでて、村はうるおっていました。ですが、そんな仁徳天皇は、天井に穴があったホロボロの家で暮らしていた。という話です。仁徳天皇は、自分のことより民のことを一番に考え、動かし人でした。だから村の人は、せきあとも、仁徳天皇に思返したと思い、大きくて立派な墓をつくり、そんな仁徳天皇のお墓を、外国の人にも見てほしいと、海の近くに造ったのではなかつたかと思いました。ぼくは、仁徳天皇と、仁徳天皇のお墓、大仙古墳のことを、とても尊敬しました。

堺市と太田市との共通点

日本最大の大仙古墳のある堺市と、東日本最大の太田天神山古墳がある太田市との共通点を見つけました。それは産業です！

当時、鉄はとても貴重で、「鉄は国家なり」という言葉があるほど、重要な資源でした。そんな鉄を使い、堺市では刀物(堺打刀物)や自転車も、太田市では自動車を作っています。古墳時代、ほぼ全てを輸入できがなっていた鉄。それを加工して、ものを作る産業。これこそが、堺と太田、巨大な古墳がある都市の共通点だと考えます。

もう一つ見つけた共通点。それは交通です！

堺市は、海に面しており、すぐ北には大阪港もあるなど、海上交通は古墳時代から発達していたと考えられます。これにはセミナでの外国の人に大きさをアピールする役割も、ここを通らなければ果たされなかったかもしれません。一方の太田市は、南に利根川、北東に渡良瀬川が流れているなど、川の交通は古墳時代から発達していたと考えられます。

「交通が便利」これは、大きな古墳を作る上で、欠かせない条件だったのではないのでしょうか。

もしかしたら...

藤岡市の白石稲荷山古墳は、鮎川を見下ろす河岸段丘沿いに位置していて、下から見上げると、大きさが強調されるように造られています。同じような特ちょうのある大仙古墳と照らし合わせてみると、築造時期が、白石稲荷山古墳が5世紀前半、大仙古墳が5世紀中頃と、ほぼ一致していたことが分かりました。あくまで想像ですが、5世紀に、いろいろな人に「見せる古墳」が国内で流行し、堺の地でも、上野の地でも、こうして5世紀に「見せる古墳」を造ったのではないかと思います。

こちらは日本最大の大仙古墳です。古墳のくびれ部がかなり特ちょう的な形ですね。さて、上に2つの円墳があります。左側が本山古墳、右側が大仙山古墳です。古墳の海の中に古墳があるのはここだけなんです。

太田天神山古墳が約1600年ぶりのう！



約2.3倍！



これはこれは大仙山！やはりここで見ても面白いですね！

二大古墳写真館



名前: 太田天神山古墳

墳丘長: 210m

形状: 前方後円墳

所在地: 太田市内・島町

出土品: 水鳥形埴輪、長持形石棺等

東日本最大の古墳

大きさ全国 26位

名前: 大仙古墳(仁徳天皇陵古墳)

陵墓名: 仁徳天皇百舌鳥耳原中陵

墳丘長: 486m

形状: 前方後円墳

所在地: 堺市堺区大仙町

出土品: 短けん等

日本最大の古墳

大きさ全国 1位



まとめ

古墳とは一部話がされますが、日本のとある観光地で、道に座したり、路上駐車をしたり、さつえい禁止のところをさつえいしたり、近くの病院のトイレで無断で用を足すなど、迷惑な観光客が多い、近くの住民がとても困っているというニュースをたまたま見かけました。

群馬というのは、外国の方もたくさん来てくれていて、観光にもとても力を入れている県です。ぼくは前、古墳をもと観光化して、もっといろいろな人に、群馬の古墳の魅力もその場所を感じてほしいと思っていましたが、そのニュースも見て、ぼくの大好きな古墳がそんなふうになってしまったら、と思うと、観光に力を入れすぎるのも、かえってよくないのかなと思いました。

大仙古墳をはじめ、百舌鳥古墳群の古墳には、(周)にさくがあり、登ることができません。

墳丘がくずれたり、荒らされたりするのを、未然に防いでいるのです。ぼくは、墳頂に立って、周りの景色をなかめるのも好きなので、少し残念な気もしました。

観光に注力しすぎると、衛生的にも、古墳にも悪い影響も及ぼしかねません。一方で保護に注力しすぎると、古墳の魅力を体験しにくくなります。観光と保護、2つを融合させ、みんなが古墳のことも知り、愛着も持ってもらうことが、古墳の素晴らしさも守り、後世に伝えるために、必要なことだと、調べて思いました。大仙古墳のことなど、「東国文化」とはかけ離れてしまった部分もありましたが、他の場所のことも見習い、とり入れることで、東国文化や群馬の古墳を盛り上げ、守っていくことのき、かけになるのではと思い、調査してきました。調査する時間、レポートにまとめる時間、古墳や植輪のことを考えている時間、楽しかったな～！

参考資料・出典・引用

- ・太田市役所 都市計画課 服部氏のお話
- ・「太田市景観計画」44ページ
- ・特別展 はにわ
- ・百舌鳥古墳群ビジターセンターのスタッフさん
- ・ぐんま古墳カード
- ・もずふるカード
- ・県観光ボランティア協会 ガイドさん
- ・れきはくセミナー「仁徳天皇陵はどこまでわかったか」
- ・父と母の協力

このレポートの製作にご協力をいただいた皆様
このレポートも読んでくださった皆様

本当にありがとうございました